いのちを考える

恵光寺住職　岸野亮淳

あらゆるものは繋がって存在している（仏教の「縁起」）

どのいのちも繋がってあるのだから、いのちは時間的にも、空間的にも永遠なもの

① 時間的つながり

私には親があり、その親があり・・・。その途上に誰かがいなかったら今日の私はいない。

② 空間的つながり

花一輪　咲くも天地いっぱい　総がかり

③ 人間の生活と自然

里山生活　人間と自然とがおたがい、いのちをあたえあい、作りあう生活
おたがい、いのちを、生かし生かされる世界

④ 無量寿＆ 無量光

無量寿（永遠の時間・アミターユス）　＆　無量光（永遠の空間／アミターバ）
この二つを合成して「アミダブツ（阿弥陀仏）」と呼ばれる。この永遠の時間（たて軸）と永遠の空間（よこ軸）の交点に私がいる

⑤ 私たちのすべきこと

・次世代の人たちのために用意をする、仕事をする、その尊さ
・自分の時代だけよければいい、という生き方は許されない

環境問題を訴えているスウェーデンのグレタ・トゥーンベリーさん(16)の言。

私たちは大量絶滅の入り口にある。でもみなさんが口にできることといえば、お金のことと、経済成長は永遠に続くというおとぎ話だ。未来の世代の目は、みなさんに注がれている

（2019 年 9 月 23 日、国連本部での気候行動サミット、若者とグテレス国連事務総長との対談の席上で）。

資料①

自分の番　いのちのバトン

相田(あいだ)みつを

父と母で二人
父と母の両親で四人
そのまた両親で八人
こうしてかぞえてゆくと
十代前で　千二十四人
二十代前では ――？
なんと百万人を越すんです

過去無量の
いのちのバトンを受けついで
いま　ここに
自分の番を生きている
それが
あなたのいのちです
それがわたしの
いのちです

※　相田みつを（1924～1991）
日本の詩人・書家。平易な詩を独特の書体で書いた作品で知られる。書の詩人、いのちの詩人とも称される。

資料②

大漁(たいりょう)

金子(かねこ)みすゞ

朝焼け小焼けだ
大漁(たいりょう)だ
大羽鰮(おおばいわし)の
大漁だ

浜はまつりの
ようだけど
海のなかでは
何万(なんまん)の
鰮(いわし)のとむらい
するだろう

※　金子みすゞ（1903～1930）
大正時代末期から昭和時代初期にかけて活躍した日本の童謡詩人。本名、金子 テル(かねこ テル)。二六歳で死去するまでに五一二編の詩を綴った

資料③

あとからくる者のために

坂村真民(さかむらしんみん)

あとからくる者のために
苦労をするのだ
我慢をするのだ
田を耕し
種を用意しておくのだ
あとからくる者のために
しんみんよ　お前は
詩を書いておくのだ
あとからくる者のために
山を川を海を
きれいにしておくのだ
ああ　後からくる者のために
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
未来を受け継ぐ者たちのために
みな夫々自分で出来る
何かをしてゆくのだ

※　坂村真民（1909～2006）
日本の仏教詩人。一遍の生き方に共感し、一遍の生誕地・愛媛県松山に「たんぽぽ堂」と称する居を構え、毎朝一時に起床し、近くの重信川で未明の中祈りをささげるのが日課であった。